

平成20年度 第2次実施計画期間 事後評価 整理表

2009/03/02

【政策】	21 市民の生命を救う	【節】	安全で快適な生活環境の実現
【施策】	1 市民と連携して生命を守る	【項】	安全で安心な地域環境づくり
【基本事務事業】	2101 予防救急を推進する	【基本計画区分】	404【担当課】 6002500 消防救急課

【目的】	市民によるいち早い応急手当が救命に大きな効果があることから、市民指導を通じて応急手当率の向上を図る	【背景】	年々救急需要が増加している	コード	配下事務事業名	【担当部課評価】:最終結果・課題の解決策・今後の方向性 現状維持
				210101	予防救急推進事業	社会の少子高齢化の進行などから救急需要が増加する中で、救急隊員連絡調整会議、救急事後検証を開催し事故事例を分析して積極的に広報することで、防ぎえる救急事故の発生を防止する必要がある。あわせて救急車の適正利用も呼びかける。

【今後の課題】
一般負傷による事故事例をなくすため事故事例の分析をする

【重要性】
市民生活の中の危険性の排除と注意力の喚起

【現状分析】
救急需要の増加に鑑み、予防救急事業の推進により救急要請の適正利用が図られるものと思われます。

【指標】	上段: 予算目標	下段: 実績	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]
一般負傷件数を減らす			90	90	90	90	90
(件)			94	194	-1	123	-78
			0	0	0	0	0
()			0	0	0	0	0

【政策】	21 市民の生命を救う	【施策】	1 市民と連携して生命を守る
【基本事務事業】	2101 予防救急を推進する	担当課:	6002500
【事務事業】	210101 予防救急推進事業	消防救急課	
		会計区分	一般会計
		計画区分	一般事業
		404	戦略区分
			—

【目的】	一般負傷による救急事故をなくすために事故事例を分析し、救急事故防止対策を確立すると共に救急車の適正利用を図る。	【指標】	軽減対策等の樹立件数(件)	【指標概要】	一般負傷の中の高齢者の割合が多い事故事例の対策樹立数(事後検証実施件数)	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]	【事業費】	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]
			()			4	5	6	7	8	計画額	0	0	0	0	0
						5	9	10	8	9	(一般財源)	0	0	0	0	0
											予算額	0	0	0	0	0
											(一般財源)	0	0	0	0	0
											決算額	0	0	0	0	0
											職員数	0.45	0.45	0.45	0.45	0.45
											単位) 事業費: 千円					
											職員数: 人					
【対象】	市民(通勤・通学者を含む)・職団員		()			0	0	0	0	0	【業務】	救急事故の情報収集・分析をする 事故種別ごとの対策を確立する 事故防止対策を情報提供する				
						0	0	0	0	0						

【指標値】上段: 予算目標 下段: 実績

【定量分析】: 課題・現状分析
救急需要の増加に鑑み、予防救急事業の推進により救急車の適正利用が図られるものと思われる。

【担当部課評価】: 最終結果・課題の改善策・今後の方向性
救急隊員連絡調整会議、救急活動事後検証などで情報交換、事例分析、対策について検討するとともに、原因の多くを占める高齢者の転倒事故の防止を、松戸市消防局ホームページや広報誌などを通じて広く呼びかけ、防ぎえる救急事故防止対策を確立すると共に、救急車の適正利用についても呼びかける。

平成20年度 第2次実施計画期間 事後評価 整理表

2009/03/02

【政策】	21 市民の生命を救う	【節】	安全で快適な生活環境の実現
【施策】	1 市民と連携して生命を守る	【項】	安全で安心な地域環境づくり
【基本事務事業】	2102 市民の応急手当で命を救う	【基本計画区分】	404【担当課】 6002500 消防救急課

【目的】	市民によるいち早い応急手当が救命に大きな効果があることから、市民指導を通じて応急手当率の向上を図る	【背景】	救急需要の増加により、救急隊到着までの空白時間を埋める対応が必要。	コード	配下事務事業名	【担当部課評価】:最終結果・課題の解決策・今後の方向性 現状維持
				210201	応急救護普及事業	市民の救命講習への関心の高まりやAEDの普及などから、平成19年に家族などにより応急手当が実施された傷病者数は、心肺停止傷病者全体の約47パーセントとなり、1ヶ月後の生存者数も約10パーセントとなった。今後もAEDの使用方法説明講習や救命講習会開催の積極的推進が必要である。

【今後の課題】
市民の救命講習会への関心の高まりから、救命講習会の充実を図る。

【重要性】
心肺停止傷病者の命を救うためには、バイスタンダー(現場に居合わせた市民)が迅速な通報、応急手当を行い救急車の到着するまでの空白の時間をカバーし、救急隊による高度な救急救命処置、迅速な医療機関への搬送が必要。

【現状分析】
救命講習会を定期的に開催し市民のニーズに対応すると共に、応急手当指導員の養成を行い応急手当指導体制の更なる充実を図る。

【指標】	上段: 予算目標	下段: 実績	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]
応急手当実施に伴う蘇生率			5	5	5	5	5
(%)			5.2	4.8	1.2	10.6	7.1
()			0	0	0	0	0
()			0	0	0	0	0

平成20年度 第2次実施計画期間 事後評価 整理表

2009/03/02

【政策】	21	市民の生命を救う	【施策】	1	市民と連携して生命を守る								
【基本事務事業】	2102	市民の応急手当で命を救う	担当課:	6002500									
【事務事業】	210201	応急救護普及事業	消防救急課	会計区分	一般会計								
				計画区分	計画事業								
				404	戦略区分								
					成長								
【目的】	【指標】	【指標概要】	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]	【事業費】	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]
いざという時に、市民による応急手当で救急隊が到着するまでの空白の時間をカバーするために、救急救命ネットワークを構築する。救急救命講習会を定期的に開催し市民ニーズに対応する。応急手当指導員の養成を行い、応急手当指導体制の更なる充実を図る。	救急指導数(%)		104	109	114	120	126	計画額	1,508	1,206	1,319	1,266	1,338
			322	284	380	575	687	(一般財源)	1,508	1,206	1,319	1,266	1,338
								予算額	1,508	1,206	1,071	1,217	1,451
								(一般財源)	1,508	1,206	1,071	1,217	1,451
								決算額	1,132	974	988	1,132	1,372
AED設置事業数()			0	0	45	20	10	職員数	3.06	3.06	3.06	3.06	3.06
			0	3	39	15	48	単位) 事業費: 千円 職員数: 人					
()			0	0	0	0	0	【業務】	救急救命ネットワークを構築する 普通救命講習修了者を増加させる 応急手当指導員を研修及び指導する				
			0	0	0	0	0						
【対象】	【指標値】上段: 予算目標 下段: 実績												
市民(通勤・通学者を含む)、職員、消防団員。	【定量分析】: 課題・現状分析												
	上級救命講習や普通救命講習、その他の救命講習を実施することにより、年々バイスタンダー(現場近くの一般市民)による応急手当件数が増加して、蘇生率も向上している。												
	【担当部課評価】: 最終結果・課題の改善策・今後の方向性												
	心肺停止事案において蘇生率の向上を図るためには、現場近くの一般市民(バイスタンダー)によるAEDの使用を含めた応急手当の実施率の向上が重要となってくる。このため市内公共施設、事業所等へAEDの設置を促し、救急救命ネットワーク事業の更なる推進を図る。												

【計画事業】

【計画事業名】 応急救護処置普及事業

【節項コード】 404 【節名】 安全で快適な生活環境の実現

【項名】 安全で安心な地域環境づくり

	H15	H16	H17	H18	H19
計画	普通・上級救命講習その他の救急指導	普通・上級救命講習その他の救急指導	普通・上級救命講習その他の救急指導	普通・上級救命講習その他の救急指導	普通・上級救命講習その他の救急指導
実績	指導件数 322件参加者 9,333人	指導件数 284件参加者 8,840人	上級救命8件289人普通救命141件 3,363人その他 231件 7,422人	上級救命5件211人普通救命133件 2,860人その他 231件 8,216人	上級救命6件261人普通救命172件 3,596人その他 254件 8,001人

平成20年度 第2次実施計画期間 事後評価 整理表

2009/03/02

【政策】	21 市民の生命を救う	【節】	安全で快適な生活環境の実現
【施策】	2 市民が安心できる救急体制を確立する	【項】	安全で安心な地域環境づくり
【基本事務事業】	2103 救急体制を整備する	【基本計画区分】	404【担当課】 6001000 消防局企画管理室

【目的】	【背景】	コード	配下事務事業名	【担当部課評価】:最終結果・課題の解決策・今後の方向性 現状維持
迅速な確な救急活動体制を確立し、市民が安心して暮らせる高度化された救急体制をつくる	救急需要の増加	210301	救急関係事業	平成19年度に全消防署に高規格救急車が配置され、今後は、常に救急救命士が高規格救急車に同乗できるように救急救命士の育成及び適正配置を行い、年々増加する救急事案に均一な行政サービスを提供できるようにします。
		210303	救急車両整備事業	

【今後の課題】
救急要請の増加 救急車両の高規格への対応 救急件数増加による車両走行距離の増加に伴う車両更新計画の前倒し

【重要性】
適切な車両配置による市民へいち早い救急救命処置の提供

【現状分析】	【指標】	上段: 予算目標	下段: 実績	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]
年々増加する救急出場に対応するため、高規格救急車の全消防署への配置の完了に伴い、引き続き救急救命士の育成及び適正配置を実施します。	覚知から現場出発までの時間短縮	(分)	()	16	16	16	16	16
				20.3	20.6	21.6	22.4	22.5
				0	0	0	0	0
				0	0	0	0	0

【政策】	21 市民の生命を救う	【施策】	2 市民が安心できる救急体制を確立する
【基本事務事業】	2103 救急体制を整備する	担当課:	6002500
【事務事業】	210301 救急関係事業	消防救急課	会計区分 一般会計 計画区分 一般事業 404 戦略区分 -

【目的】	【指標】	【指標概要】	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]	【事業費】	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]
救急隊、消防救急車、赤い救急隊による傷病者へより早い、応急処置を施し蘇生率を向上する。	()	応急救護数/出場件数	80	85	90	90	100	計画額	9,881	8,413	8,269	8,674	9,091
			92	92	92	92	91	(一般財源)	9,881	8,413	8,269	8,674	9,091
			0	0	0	0	0	予算額	9,881	8,413	8,824	8,538	8,968
			0	0	0	0	0	(一般財源)	9,881	8,413	8,824	8,538	8,968
()			0	0	0	0	0	決算額	8,492	8,811	8,824	8,454	8,952
			0	0	0	0	0	職員数	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
【対象】 市に関わる全ての人			0	0	0	0	0	【業務】	救急隊活動業務 医療機関連携業務 消防隊の救急活動業務				
			0	0	0	0	0						

【指標値】上段: 予算目標 下段: 実績

【定量分析】: 課題・現状分析

1 救急隊員及び救急有資格者のレベルアップ 2 医療機関との連携 3 救急車の適正利用呼びかけ 4 救急支援体制の強化

【担当部課評価】: 最終結果・課題の改善策・今後の方向性

1 研修体制の充実 2 医療機関との連携強化 3 広報誌及びホームページなどでの広報 4 「消防救急なんでも相談電話」 5 救急支援体制の強化という体制を充実させることで、市内で発生した救急事案に、救急救命士による高度救命処置をより早く提供できることとなった。

平成20年度 第2次実施計画期間 事後評価 整理表

2009/03/02

【政策】	21	市民の生命を救う	【施策】	2	市民が安心できる救急体制を確立する
【基本事務事業】	2103	救急体制を整備する	担当課:	6002500	
【事務事業】	210303	救急車両整備事業	消防救急課		
			会計区分	一般会計	計画区分
					計画事業
					404 戦略区分
					成長

【目的】	【指標】	【指標概要】	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]	【事業費】	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]	
高規格救急車を10消防署全署に配置して救急高度化を図り、市民の生命を救う。	高規格救急車の導入率 (%)	配置・更新数/配置計画数	60	70	80	90	100	計画額	34,528	0	29,925	30,596	61,800	
			60	70	80	90	100	(一般財源)	2,462	0	12,925	1,842	4,997	
									予算額	34,528	0	29,925	29,900	52,248
									(一般財源)	2,462	0	12,925	1,797	4,045
									決算額	28,718	0	29,873	26,124	51,024
	(0)		0	0	0	0	職員数	42.71	42.71	42.71	42.71	42.71		
			0	0	0	0	【業務】 救急車両整備計画を策定する 救急車両・装備の高規格化を図る 車両を導入(更新)する							
	(0)		0	0	0	0	【指標値】上段: 予算目標 下段: 実績							

【対象】
市に関わる全ての人。

【定量分析】: 課題・現状分析
全救急車が高規格救急車になり、広く救急救命士による高度救急救命処置を市民へ提供できることとなり、救命率の向上が期待される。

【担当部課評価】: 最終結果・課題の改善策・今後の方向性
通常運行の救急車両は全車両が高規格救急車となったが、災害派遣対応、車両の定期点検や故障といった事態のときに対応する非常用救急車が全車高規格救急車ではないため、今後も車両の整備を継続する必要がある。

【計画事業】

【計画事業名】 高度救急化推進事業

【節項コード】 404 【節名】 安全で快適な生活環境の実現

【項名】 安全で安心な地域環境づくり

	H15	H16	H17	H18	H19
計画	高規格救急車の導入(八ヶ崎)	高規格救急車の導入(東部)(更新・五香)	高規格救急車の導入(六実)(更新・小金)	高規格救急車の導入(大金平)	高規格救急車の導入(二十世紀)
実績	六実救急更新	八ヶ崎救急更新	五香救急更新	大金平救急導入	東部救急導入、小金救急更新

平成20年度 第2次実施計画期間 事後評価 整理表

2009/03/02

【政策】	21 市民の生命を救う	【節】	安全で快適な生活環境の実現
【施策】	3 救急隊員が市民の生命を救う	【項】	安全で安心な地域環境づくり
【基本事務事業】	2104 高度救急化時代に対応した救急隊員をつくる	【基本計画区分】	404【担当課】 6002500 消防救急課

【目的】 高度救急化時代に対応した救急体制を確立し、救命率の向上をめざす	【背景】 メディカルコントロール体制下医師による、指示助言、事後検証、救急救命士の再教育、救急隊員の救急知識技能など、救急救命の向上が求められている	コード 210401	配下事務事業名 高度救急関係事業	【担当部課評価】:最終結果・課題の解決策・今後の方向性 現状維持 救急救命士を養成し、全救急隊が高規格救急車となり全救急隊へ救急救命士が配置となったことで、高度な救急救命処置を市民へ平等に提供できるようになり救命率の向上が期待される。今後は、メディカルコントロール体制下での救急隊員の知識、技能の向上を図るとともに、研修期間中における人員確保のため、更なる救急救命士の養成が必要となる。
	【今後の課題】 予算措置 研修期間中の人員の確保			

【重要性】
全救急隊へ救急救命士を配置し、高度な救急救命処置を実施し市民への平等性を図る。メディカルコントロール体制下での救急隊員の知識、技能の向上を図る

【現状分析】 メディカルコントロール体制の中で、救急隊員の技術向上と医療機関との連携の強化をより一層図る必要がある。	【指標】 上段:予算目標 下段:実績	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]
	応急処置実施率	99	99	99	99	99
	(%)	100	100	99.2	99.1	99.1
	()	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0

平成20年度 第2次実施計画期間 事後評価 整理表

2009/03/02

【政策】	21	市民の生命を救う	【施策】	3	救急隊員が市民の生命を救う								
【基本事務事業】	2104	高度救急化時代に対応した救急隊員をつくる	担当課:	6002500									
【事務事業】	210401	高度救急関係事業	消防救急課	会計区分	一般会計								
				計画区分	計画事業								
					404								
				戦略区分	成長								
【目的】	【指標】	【指標概要】	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]	【事業費】	[H15]	[H16]	[H17]	[H18]	[H19]
・救急救命士の養成及び救急隊員のスキルアップを図る。・市民への平等性を図る。	救急救命士の充足率(%)	実働救急救命士÷(1署4名×高規格救急車台数)×100	100	100	100	100	100	計画額	9,208	10,343	23,229	11,757	10,750
			92	91	94	93	91	(一般財源)	9,208	10,343	23,229	11,757	10,750
	(0)		0	0	0	0	0	予算額	9,208	10,343	23,196	10,569	9,934
			0	0	0	0	0	(一般財源)	9,208	10,343	23,196	10,569	9,934
(0)			0	0	0	0	0	決算額	8,557	9,839	20,343	10,758	9,424
			0	0	0	0	0	職員数	13.88	13.88	13.88	13.88	13.88
									単位) 事業費:千円 職員数:人				
【対象】	消防職員					【業務】	救急活動向上業務 救急救命士養成業務						

【指標値】上段:予算目標 下段:実績

【定量分析】:課題・現状分析

13名の救急救命士を新規に養成し、全救急車の高規格化を図ることが出来た。しかしながら、救急隊配置救急救命士が40名に満たないことから、救急救命士乗車率100%に至っていない。

【担当部課評価】:最終結果・課題の改善策・今後の方向性

全救急車が高規格救急車となったが、救急救命士の配置状況は充分とはいえ、市民全体への高度救命処置の平等な提供には至っていない。このため救命士の適正な配置を目指し、養成事業を推進していく必要がある。また、気管挿管・薬剤投与講習へ今後も派遣する必要がある。

【計画事業】

【計画事業名】 高度救急化推進事業

【節項コード】

404 【節名】安全で快適な生活環境の実現

【項名】安全で安心な地域環境づくり

	H15	H16	H17	H18	H19
計画	1 救急救命士の養成2 メディカルコントロール体制の確立3 救急隊員の病院研修・講演4 備品等の整備5 医療機関との連携	1 救急救命士の養成2 メディカルコントロール体制の確立3 救急隊員の病院研修・講演4 備品等の整備5 医療機関との連携	1 救急救命士の養成2 メディカルコントロール体制の確立3 救急隊員の病院研修・講演4 備品等の整備5 医療機関との連携	1 救急救命士の養成2 メディカルコントロール体制の確立3 救急隊員の病院研修・講演4 備品等の整備5 医療機関との連携	1 救急救命士の養成2 メディカルコントロール体制の確立3 救急隊員の病院研修・講演4 備品等の整備5 医療機関との連携
実績	1救急救命士4人養成した。2病院前救護体制の充実強化を図った。3 各種研修会、医学会への受講4定期的に点検を実施5連携を密にしスムーズな病院収容を図った	1救急救命士3人養成した。2病院前救護体制の充実強化を図った。3 各種研修会、医学会への受講4定期的に点検を実施5連携を密にしスムーズな病院収容を図った	1救急救命士2人養成した。2病院前救護体制の充実強化を図った。3 各種研修会、医学会への受講4定期的に点検を実施5連携を密にしスムーズな病院収容を図った	1救急救命士2人養成した。2病院前救護体制の充実強化を図った。3 各種研修会、医学会への受講4定期的に点検を実施5連携を密にしスムーズな病院収容を図った	1救急救命士2人養成した。2病院前救護体制の充実強化を図った。3 各種研修会、医学会への受講4定期的に点検を実施5連携を密にしスムーズな病院収容を図った